



「尾総プライド」

校長 杉森 晋



ウィル・スミス主演のハリウッド映画『アイ・アム・レジェンド』を観たことがありますか。何度かテレビでも放映されているので、知っている人もいると思います。ストーリーは、“世界の人々のほとんどがあるウイルスへの感染によって死滅していく中で、ニューヨークでたった一人生き残った元アメリカ陸軍中佐であり科学者の主人公が、動物園から逃げ出したインパラを狩ったり公園でトウモロコシを収穫したりして生き長らえ、感染してゾンビのように凶暴化した人と戦いながら、他に生きている人にメッセージを送り続け、感染を収束させる”といったものです。大都会ニューヨークでも、他に誰もいなければ電車も走らず、車の渋滞も起きず、信号で止まる必要もなく、道路の真ん中でゴルフボールを思いっきり打っても、さらには銃を撃っても誰の迷惑にもならず、主人公はそのようなやりたいことをやっても全く満足できず、むしろ虚しさや寂しさを感じてしまうところが印象的でした。このようなシーンを観て、私は、人が1人で生きていくときにはルールは不要だが、逆に複数の人が共に生きていくときは、お互いに嫌な思いをし合わないためにもルールが必要であることを改めて認識させられました。私はルールに縛られたとしても、複数の人の中で生きていきたいと思っています。

さて、4月10日の前期始業式の後に、生徒会主催の新入生歓迎会が行われました。その中で生徒会執行部からは、「なぜルールを守る必要があるのか」に対しての考えが示されました。それは、「**ルールを守る習慣をつける → 社会への適応能力がつく**」と「**社会に出たときに、善悪の判断ができるように**」というものです。校則というルールを、自分たちの将来も見据えながら深く考えていくその姿勢は大変素晴らしく、私は非常に感心させられました。さらに生徒会執行部からは、これからの校則についてのキーワードとして、「『**自立**』と『**調和**』が**両立する学校生活**」も示されました。言うまでもありませんが、この2つ言葉は本校3つの校訓の内の2つで、『自立』とは、善悪を正しく理解し、ルールを守り、人に頼ることなく、自らの意思と力で行動し、それぞれの道を、切り拓くことであり、『調和』とは、みんなで一つのことを成し遂げるために、物事を自分本位に考えず、相手を思いやり、尊重し合うことです。生徒会執行部からは、この2つを両立させて、「**保護者や地域の方々に本校生徒の頑張りを見てもらいたい**」ことと「**社会に出たときに、ルールを守って自立できる人間になりたい**」希望が説明されました。これについては我々教職員も常日頃皆さんにはそうなってほしいと期待しているものであり、全く異論はありません。私は生徒会執行部のこのような考えに便乗して、皆さんには『自立』と『調和』に加えて『**自律**』も期待したいと思います。前期始業式の際にも言いましたが、『自律』とは、他からの支配や制約を受けることなく、自分自身で規範を立てて行動することであり、『自立』と『調和』の基礎を成すものです。その規範が自分にばかり都合が良く、他に迷惑のかかるものであってはなりません。また、自分自身で規範を立てるに当たっては『責任』も派生します。生徒会執行部を中心に今やろうとしているのはまさにこのことで、責任を持ってルールを守り、地域の方々から認められる『**尾総プライド**』を高めようとしているのだと思います。皆さんにはこの一年、『尾総プライド』にこだわって学校生活を送ってくれることを期待しております。